

# 会社員からスマート農家へ

第50回全国豆類経営改善共励会、農林水産省農産局長賞受賞

## 渡辺 和弘さん・美幸さん（旭ヶ丘）



「自分たちの大豆栽培の取組みを紹介したいと思い、応募を決めました」と話すのは、大豆作りで全国豆類経営改善共励会の農林水産省農産局長賞を受賞した渡辺和弘さん・美幸さん夫妻。この共励会は、豆作の経営改善の面から、先進的で他の模範となる経営体や生産集団を表彰し、その成果を広く紹介するもので、毎年開催されています。

### 機械化で実現する高収量

積極的に機械を取り入れて農業を行う渡辺さん。自動操舵システムを使うことで、作業時間を削減しています。また、コンバインで地力の差を測定して、



データを分析。畑ごとに収穫量に差が出る原因を解明し、収穫量の増加に繋がっています。その結果、県平均の半分以下の作業時間で、約1.5倍の収穫量を保持しています。「結果に繋がるのが楽しい」と和弘さんは笑顔で話します。

### 信頼関係で成り立つ夫婦分業制

和弘さんは、34歳まで会社員として働いていました。しかし、農家の父のサポートをするため、産業用無人ヘリの免許を取得したことがきっかけで、農業の道へ進むことを決意したそうです。

渡辺さんは夫婦2人の家族経営スタイルで、和弘さんは機械メインの作業、美幸さんは水量の管理などを担当しています。「相手の担当箇所には一切口を出しません。完全に分担しているからこそ、自分の仕事に責任を持って作業しています」と話す美幸さんの言葉には、2人の信頼関係の深さや、仕事へのプライドが感じられます。

### 若い人に農業の道を開きたい

「今後たくさんロボットを取り入れて、労働時間の短縮に繋がってほしいです。私たちは農家にしては珍しく、始業と終業の時間を決めています。いつも仕事をしているといった農家のイメージを、会社員と変わらぬ印象へと変えていき、若い人に農業っていいなと思ってもらえる農家になりたいです」と2人は声をそろえます。進歩する技術を積極的に取り入れて、スマート農家として活躍する渡辺さん夫妻。2人の挑戦はこれからも続きます。